

事業立ち上げ期のスタートアップ等向けプログラム「STEP for SEE D」渡航プログラム レポート

開催概要

- 開催日：2025年11月10日（月）～11月14日（金）
- 開催場所：シンガポール
- 参加者：プログラム採択者6者（9名）、仙台市職員2名



2025年11月10日（月）～11月14日（金）にかけて、仙台市によるスタートアップ海外展開支援プログラム「STEP for SEED」の一環として、採択スタートアップ7社を対象としたシンガポール渡航プログラムが実施されました。本プログラムは、現地の有力企業・研究機関・エコシステム関係者との面談、英語ピッチセッション、現地視察を通じて、参加企業の海外展開に向けた実践的な学びと具体的なビジネス機会を創出することを目的としています。今回のプログラムには、採択者6者（9名）に加え、仙台市職員2名が同行し、計11名が参加しました。

1. プログラム趣旨とオープニングセッション

初日のオープニングセッションでは、事務局より本渡航プログラムの目的や期待成果が共有され、参加スタートアップが現地での活動を最大限に活用するための視点が示されました。

続いて、シンガポールのイノベーションエコシステムに関する解説が行われ、国家戦略、研究開発体制、スタートアップ支援制度、主要プレーヤーの特徴などが紹介されました。参加者にとって、その後の研究機関訪問や企業セッションの理解を深める基盤となり、「今回の渡航で何を見るべきか」「どのような観点で現地と議論すべきか」が明確になる内容となりました。

その後、採択者による自己紹介が行われ、事業内容と今回の渡航で重視したいポイントが共有されました。初対面の参加者も多い中、会場は終始和やかな雰囲気に包まれ、前向きな期待感が自然と醸成されました。



2. 全体セッション

本プログラムでは、参加者全員で参加する「全体セッション」が複数実施されました。これらのセッションは、現地スタートアップエコシステムを俯瞰的に理解し、各社の事業に対する示唆を得る重要な機会となりました。

<BLOCK71 セッション>

初日午後は、Ayer Rajah地区の代表的スタートアップ拠点であるBLOCK71を訪問しました。Oriffin Ventures CEO Clarence 氏より、

- ディープテック投資の動向
- 東南アジア市場の成長機会

- 日本企業との連携事例

についてレクチャーが行われ、参加者にとって現地市場の理解を深める時間となりました。

また、NUS発スタートアップである Enlipsium 社および Phaos Technology 社とのセッションを通じ、ディープテック企業の事業化プロセスを直接学ぶ機会も得られました。



<ACEセッション>

2日目午前は、国家レベルでスタートアップ支援を行う ACE (Action Community for Entrepreneurship) との共同セッションを、最新拠点 Stage One Centreで実施しました。

ACEからは、シンガポールにおけるスタートアップ支援制度、法人設立や事業立ち上げのポイントなど、海外進出初期に役立つ実務的な情報が提供されました。質疑応答では、「自社が活用できる制度」「現地での初動」等に関する質問が多く寄せられ、活発な意見交換が行われました。



<VC Mixer>

3日目午前には、ICMGオフィスにてVC Mixerを開催しました。

SGInnovate、Cocoon Capital、UntroD など、ディープテック領域に強みを持つファンドが参加し、各社が英語でピッチを行いました。

投資家からは、

- 海外展開時の評価ポイント
- 事業計画の磨き込み
- 技術説明における論点

など具体的なフィードバックが寄せられました。「資料送付」「次回オンラインディスカッション」など、複数の企業で具体的な次のアクションにつながる場となりました。



<Doog社によるセッション>

4日目午後には、東南アジアで事業展開する日本発スタートアップDoog社より、海外展開の実例を踏まえたセッションが実施されました。

進出初期の課題、現地営業、プロダクト適応、顧客獲得プロセスなど、スタートアップが直面する実務的な論点が共有され、参加企業にとって具体的な学びとなりました。

参加者にとって、企業規模が近い日本スタートアップの成功例を直接聞けることで、自社の展開を具体的にイメージするための貴重な機会となりました。



<ネットワーキングセッション>

プログラム期間中には、個別面談とは別に、現地日系企業・支援機関の関係者を招いたネットワーキングセッションも実施されました。当日は 12社21名が一堂に会する場となりました。

本セッションでは、参加スタートアップが自由に事業紹介を行い、現地側からも関心領域や現在の取り組みについて共有いただきなど、双方向の情報交換が活発に行われました。形式にとらわれないオープンな雰囲気の場であったため、個別セッションとは異なる視点からの示唆を得られたほか、参加者間で新たな協業可能性や紹介につながる動きも見られました。



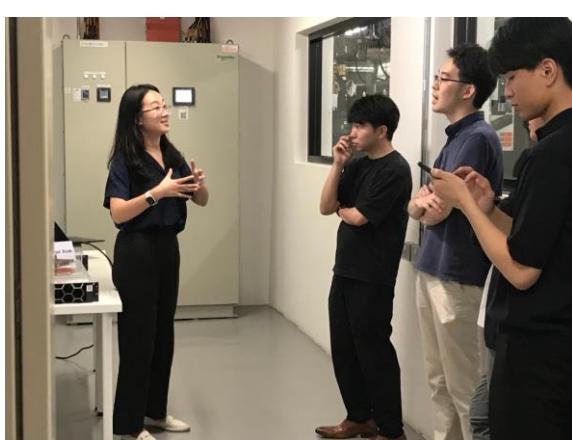
3. 個別セッション

本プログラム期間中、参加スタートアップは 合計27社 の研究機関・企業・投資家・支援機関との個別セッションに臨みました。各社の事業領域に応じて最適化された形でアポイントが設定され、技術ディスカッション、事業性評価、PoC可能性の検討、資金調達や市場展開に関する相談など、極めて実務的な対話が多く行われました。

短期間で多くの組織と対話する形となりましたが、いずれのセッションも密度が高く、参加企業が抱えていた技術課題・市場課題に対して、現地側から具体的な助言や評価を得ることができました。また、大学・政府・民間企業が連携してスタートアップを支援するシンガポール独

自の体制にも触れることができ、今後の事業展開を検討する上で重要な示唆を得る機会となりました。

これらの面談を通じ、複数の企業において 共同研究の開始、PoCの検討、NDA締結の準備、アクセラレーションプログラムへの応募、現地企業の紹介、将来の商談開始 など、次につながる具体的なアクションが明確化される結果となりました。



4. 各社の成果例と、今後の展開

- Capturesmith
 - 鹿島建設のオープンイノベーション施設を訪問し、同社が実施するアクセラレーションプログラムへの応募を検討
 - IHIのSAF担当との面談を通じ、2028年頃にクリーンなCO₂源としてHumiDACの導入を検討いただく
 - NUS化学科Jason教授との面談を通じ、今後共同研究の実施に向けたディスカッションを開始することに決定。Jason教授の研究室のラボ設備を使わせてもらうことで、HumiDAC単体のPoCにも繋げていくことも可能になる。
- Cell Materials
 - NTU Rohit教授との打合せを通じ、補填材複合材料設計について具体的な情報交換を継続的に実施することに決定
 - NUHSとの面談を通じ、臨床試験までの一連の開発プロセスを支援いただける環境があるため、開発段階から継続的に連携していくことで合意した
 - 骨補填剤の開発・製造・販売を行うosteopore社との面談を通じ、彼らとの協業による、彼らの既に持っているネットワークへのアクセス可能性等についても示唆を得た状況。次回オンラインにて将来座組を含めた打ち合わせを予定
- Nanofrontier株式会社
 - NUSのデータセンターテストベット施設であるSTDCTや、蓄電池開発・製造を行うV FlowTechとの面談を通じ、今後必要となる実験データ等が明らかになった
 - Cocoon CapitalのCapitalistから、現地の水処理関係の方を紹介いただき、今後具体的な商談に進むことになった
- イームズロボティクス株式会社
 - Pier71との面談を通じ、Smart Port Challengeへの申し込みを検討。アイデア想像から最終的な着地（ソフトランディング）までサポートを受けられる予定。
 - 世界最大のドローンエアラインたるSkyports Drone Service社との面談を通じ、現在開発中の機体が、Skyports社の将来的な路線展開のスペック要件に適合する可能性が高いことが判明したため、オペレーター視点からの機体開発におけるご支援を受けると共に、近い将来、日本およびその他のAPAC地域において共同プロジェクトを実現するべく具体的な商談を年内に開始する予定。ネクストステップはMoUを結ぶ予定

- Garuda Roboticsについては、接触点検ドローンが実現出来れば相当に市場が拡大する為、先ずはNDAを結びより具体的な協業内容の深化に務める予定
 - 政府のロボティクス系研究機関であるA*STAR I2Rについても、接触型点検ドローンについて、先ずは資料交換を通じ、今後の協業に向けたディスカッションを実施する予定
- 株式会社bionto
 - シンガポールでの自宅でのスキンケアは求められていないという示唆を得た一方で、NUHSやRaffles Japanese Clinicの医師との討議を経て、富裕層向けのオーラルケアデバイスの可能性を確認
 - また、化粧品のOEMを行うCHAKS Cosmetic Design & Servicesとの面談を通じ、試作機ができたら評価検証を共に実施するパートナーとして動いていく方向で合意を獲得
- 株式会社QueeenB
 - NUS・NTUの先生やBlumaiden Biosciences社との討議を通じ、最終的に目指すべきマーケットはUSであり、シンガポールはそのテストベット的な側面が強いことを認識することができた
 - 一方で関係資本としての収穫は多く、政府系のスタートアップ支援機関であるACEとの継続討議や、政府系研究機関であるA*STARとのオンライン面談や、Blumaiden Biosciences社からのシンガポール・米国のお客様を紹介いただく等予定しており、本渡航から産まれたネクストステップも多々ある

5. 総括

今回の5日間のプログラムを通じ、参加スタートアップは、シンガポールのイノベーションエコシステムに直接触れ、自社の事業を海外視点で捉え直す貴重な機会となりました。

全体セッションでは、現地支援制度や市場動向の理解が進み、個別セッションでは 27社との議論を通じて共同研究・PoC・商談等の実務的な次ステップが具体化しました。また、ネットワーキングセッションでは 12社21名との新たな接点が生まれ、今後の展開に向けた関係構築が進みました。

参加企業にとって、今回の渡航は

- 海外展開に向けた方向性の明確化
- 現地パートナー候補との接点形成
- 事業・技術の磨き込みポイントの整理

といった成果につながり、今後の成長を加速させる基盤となりました。

仙台市および事務局としても、引き続き各社のフォローアップを行い、海外展開に向けた支援を継続してまいります。